



陶都のまもり

多治見警察署からのお知らせ

多治見警察署 (☎20110)

希望を胸に、信念を背中に

岐阜県警察官募集

令和4年度警察官採用試験

受付期限 4月7日(木)
 第1次試験 5月8日(日)
 第2次試験 6月上旬～中旬
 合格発表 7月中旬
 採用予定日 令和5年4月1日
 採用人員 男性50人程度 女性15人程度
 ※内容を変更する場合があります。

詳しくは、採用試験案内を確認してください。

岐阜県警察採用情報



多治見警察署 先輩警察官のこぼれ

警察官という仕事は、県民の生命・身体・財産を守る非常にやりがいのある仕事です。警察の仕事は幅広く、特技が生きることもたくさんあります。一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。



ようこそ手話の世界へ

これまでに紹介した手話写真の動画を見ることができます。



福祉課 (内線217)

手話通訳者は語る

～ 目に見えない障害 ～

私は手話通訳者として、40年以上ろう者と関わってきました。「耳が聞こえない」という障がいは、外見だけでは分かりにくいものです。見た目にはどこにも不自由さは見当たらないため、障がいがあるとは思えないでしょう。

以前こんな事がありました。知らない相手から声を掛けられたT君が、返事をせずそのまま行こうとしたら、突然その相手から暴力を振るわれたのです。まさかT君が耳の聞こえない人とは思わず、T君が返事もせず無視して行くのに相手が腹を立てたのではないのでしょうか。

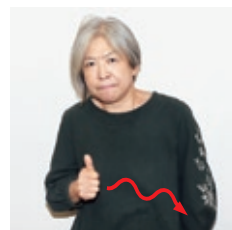
これはほんの一例です。ろう者の一番大きな困難は、聞こえないことで周りの人とのコミュニケーションがとれないことです。このことが、生活のあらゆる面で壁となり、生きづらさを生みだしています。

手話通訳は、そんなろう者の気持ちや言葉をくみ取り、社会とつなげる役目を担っています。誰にでも優しい社会を築く一端になれたなら、幸いに思います。

かんたん手話講座

ヘビは嫌い

「ヘビ」



親指を立てて、揺らしながら前に出す

「嫌い」



親指と人差し指であごを挟み、前に出す



人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

まちづくり推進課 (内線311)

『誰か』のこと じゃない。

～身近にある人権問題に目を向ける～

“人権”という言葉から、どのような印象を受けますか。「大切なものであるのは分かるけど、なんだか難しくて、自分には関係ないもの」。当事者でなければ、そんな印象を持つ方もいるかもしれません。しかし、人権問題は自分がいつ当事者になるかわからない身近な問題です。一人一人の人権を守るには、一人一人が人権を自分の問題として捉え、正しい知識をもとに、自分にできることを考えて行動していくことが大切です。

法務省では啓発活動重点目標であるキャッチコピー「『誰か』のこと じゃない。」をメインコピーに、さまざまな人権課題に関する映像作品を公開しています。日常生活で起こる人権問題について、主人公たちが「他人事」でなく「自分事」であることに気付いていくショートストーリーです。身近な人権問題、考えてください。



▲人権啓発動画 「『誰か』のこと じゃない。」 いじめ編

法務省ホームページでは、このほかセクシャルハラスメントや児童虐待、感染症などに関する人権啓発動画を公開しています。



誰一人取り残さない 安全で安心なやさしいまちを目指して

Re Start 再犯防止の情報をお届けします

まちづくり推進課 (内線311)

Vol.6 薬物乱用「ダメ、ゼッタイ」

薬物乱用防止出前講座を行っています

大麻や覚せい剤などの薬物を使用すると、「繰り返し使いたい」「やめたくてもやめられない」などの状態になることがあります。こうなると、日常生活に支障が出てやめられなかったり、薬物を手に入れるためになりふり構わなくなったりします。また、問題は使用した本人だけにとどまらず、家庭の崩壊や重大な犯罪の原因にもなり、社会問題に発展することもあります。

薬物乱用は低年齢化しています。早くからの防止啓発が必要です。土岐保護区保護司会では、市内8つの小学校で、6年生を対象に「薬物乱用防止出前講座」を行っています。薬物の依存性や医薬品の正しい使い方、違法薬物はどんなところから忍び込んでくるかなど、保護司としての経験に基づく内容で、児童たちに薬物乱用の恐ろしさを訴えています。

こうした活動が、家族で犯罪や非行について話し合うきっかけづくりにもつながっています。

土岐保護区保護司会 吉田素子さんのお話

保護司会では、違法薬物の恐ろしさを伝える出前講座を継続して開催してきました。近年急増している大麻乱用による検挙者数はその大半を若者が占めており、これは土岐市でも例外ではありません。早くからその恐ろしさを知ること、自分自身を守る力を身に付けてほしいと考えています。講座では分かりやすい内容を心掛け、未成年の喫煙、飲酒による害のほか、違法薬物に手を出すきっかけとなる具体的な誘い文句を紹介しています。

「ダメ、ゼッタイ。」を合言葉に、子どもたちが薬物犯罪に巻き込まれることがないように、これからも活動を進化させていきます。

 駄知小学校児童の感想
 脳に影響して血管が細くなってしまふなんて恐ろしいです。
 普通の薬でも使い方を間違えれば乱用になるということが、一番心に残りました。



妻木小学校での講座の様子